

東亞醫學

宇題長事郎次秀田永

目要號一十二第

投稿規定

讀者各位の投稿を歓迎す。
題目、内容は時事、學術、文藝其他隨意。
長さは一〇〇〇字以下とす。

婦人科の疾患に對する
漢方治療の特徴……

矢數 道明

- 二種の體質と藥用……………清水藤太郎
- 漢方廢止は暴政なり……………瀧田 行彦
- 中島寅男中尉の講演……………編輯部
- 漢方圖書館の誕生……………編輯部
- 會報・雜誌……………編輯部
- 編輯後記……………編輯部

明治維新の回顧と我等の使命

明治維新の上野の戦争さ中に福澤諭吉先生は超然として經濟學の講義をしてをられたといふ逸話は周く人の知る所である。江戸八百八町が何時燒野原になるかも知れず、女子供は田舎へ逃がしてやるといふ騒然たる世相に引較べて、目先きの打算や實用から一見凡そ縁の遠いミルの經濟學は餘りにも極立つた對照であつた。

然し乍ら先生の胸中には義勇隊の轟動の如きは大勢を如何とも左右する力を持つものではなく、それよりもむしろ「と迫つて来る封建社會の崩壊」と、來るべき新體制への見透し、經濟が政治の上位へ轉回してゆく準備こそ焦眉の急である。混沌たる社會情勢の中から新しい進路を見出し、その路への導きに至るまで奮然と使命を果された先生は眞に偉人の名に背かぬのである。

昭和事務局に直面しつゝある我々は歴史的回顧に於て先づ明治維新の對外關係、國內事情に最も深い關心を持たずには居られない。たつた今迄安全地帯と思つてゐた封建家臣團の解消と秩祿處方——現石十分の一を以て家祿とし賜金は

現金と公債で與へられた——地租改正、紙幣財政整理等輝しき文明開化の門出は現在の世相と想合せ何かしら切實な感慨を覚えぬざるを得ない。但し今日の時局は世界史的意義の大きに於て明治維新よりも遙かに重大で緊迫してゐる。今にして思へば上野の戦争の如きは極めて小さな騷亂にしか過ぎなかつたのである。如何なる場合に於ても歴史の必然性を適確に把へて新しい進路を掴み、一大勇猛心を揮つてその路に踏込む人、踏込ませる人の働きは偉い。過去安逸への未練も疑念もかなく、捨てて自己を將來の世界に傾倒して行く者にはたゞ一大歡喜の法悦境があるばかりだ。

福澤先生の逸話は先生が大局を掴んで明日の日本の爲めに盡された點に於て我々の心を強く打つた點がある。所が日露戦争時に某大學教授は研究室に籠つてゐて奉天陥落を知らなかつたと傳へられ或は超然たる學者の研究没頭の一念を稱する者あり、或は却つて學者の迂さを笑ふ者もある。同じく學問に精進するといへば福澤先生と此教授とは何の爲の學術かの了見の深さが雲泥の相違である。

昭和の學徒は自己の研究範圍に於けるテーマの解決にいそしんで居さへすれば能事たりといふこととは出来ない。自己の領域が獨自のものであることは勿論必要だが孤絶といふことは有り得ない。福澤先生が選ばれし途の如く、自己の職分を現在の日本の中に置いた考へねばならぬのである。現在の日本が何を要求してゐるか、自己の職分は日本の中に於いて如何なる位置にあるかを自覺することによつて祖國への愛、自己の職分への透徹した理解が油然として湧立つてであらう。

例へば我々の職分たる漢方醫學は江戸時代の「漢方獨自の發展の過程に在る」漢方でもなければ、明治時代の封建社會の没落に捲込まれて「既得勢力の保有に汲々たりし政治的悲劇」の漢方でもない。昭和の漢方は、漢方が漢方のみとして孤立的に、自己を主張してゐるのではない。先づ西洋醫學に對する異質的、逆説的存在として立上り、自己を西洋醫學の否定的契機として兩者の異質、逆説を高度に原理的に統一せんとする方向を採つてゐる。然しそれによつて漢方の體系が解消してしまふ譯ではない。

明治時代の執局者や西洋醫家は漢方の撲滅を期してよくその目的を果したが、明治時代に名を成した醫家は昭和の漢方復興に對しても亦前言を繰返して是が進展を拒否してゐる。彼等は文化を抹殺し得べきものと惡つてゐるらしいが文化の根は決して絶滅し得るものではなく、反つて必ず新しい方向を辿つて展開してゆくものである。生々と流轉こそ文化形相を正しく把握せんとする者にとつて最高の規範である。

我々は現在の日本が要求する所のものへ欣然として參加したい。國家に對し有用の具たるの榮譽を得んが爲めには凡ゆる努力を惜しまない。我々は祖國愛に燃ゆればこそ異質的逆説的な漢方の研究に精魂を傾けてゐるのだ。

漢方で治つたのか、洋方より優れてゐるのか、さう云ふことは前提的に必要不可欠ではあるが未だ以て充分とは爲し得ない。時局への參加も同様に現在に生きる路として不可欠な面ではあるが漢方の全部ではない。即ちたゞその時々々に於ける實用主義の枠を出ないなら漢方の生命は伸びやうがない。漢方が持つ獨自的なものによつてその獨立が可能であり、獨立によつて全體に對する部分として醫療文化に參與し得るのである。獨立はしてゐるが獨立ではない。

我々が現在直面してゐる種々の難關を突破するには漢方が現在の文化に於て如何なる位置を占めてゐるかを自覺するのを第一義とする。西洋醫學に對しては追従でもなく並立的意識でもない。反つてそれを超越した遙かに高度の觀點に立たねばならぬ。それには漢方醫家は技術的、材料的なものから

原理的なものへ前進しなければならぬのである。たとへば哲學が「阿呆の書廊」と呼ばれるものであつても「哲學することなしには醫學原理的なものは擱めない。」

元祿時代に醫家は萬有の知識を要すると寺島良吉の和漢三歲圖會が出来たり、易醫が現はれたりしたが、現在の漢方に要求されるのは百科大辭典的斷片的知識若くは有識的知識量でもなく、易を通じての醫學の哲學化でもない。さう云ふ固定した規範に嵌込んでしまふと、更に漢方は動きがとれなくなつてしまふ。又哲學だけによつて醫學が成立つものでもない。たゞ哲學することによつて統一され獨立性を持ち、他との關聯と自己の展開が自覺されるのである。然らば「何」によつて哲學したらよいか、獨逸哲學か印度哲學か支那哲學かそのいづれでもあり同時にいづれでもない。是等の諸哲學の日本の脱皮を遂げること自體が即ち「何」である。

明治維新を回顧することは直ちに反轉して現在の深い洞察となり明治の漢方を回想することは直ちに現在の漢方の使命の明示となる。そして新しい日本の醫學の胎動を感じ、歡喜に打顫ひたすならざる精進を誓ふものである。(龍野)

- 漢方と漢藥
——十月號概目——
- 眩暈に對する漢方醫學的治療法……………矢數 道明
 - マラリヤに對する漢方療法に就て……………中島 寅男
 - 鍼の運用……………石井 陶伯
 - 漢藥を語る座談會……………香宗我部讓
 - 漢方より觀たる腎臟病……………小出 壽
 - 治療報告……………矢數 有道
 - 治驗報告……………堤 氏
 - 皇漢醫學及按摩導引……………三上 平太
 - 藥用處方記憶法……………今村 昌一
 - 編輯雜誌……………多々良 素
 - 氣質……………梅村 隆保
 - 編輯雜誌……………三好 修一
 - 氣質……………石原 保秀
 - 編輯雜誌……………石井 就三
 - 氣質……………氣賀 林一

馬などの腹にたかつて血を吸ふやつです。この血を吸ふといふ自然の性血を薬に利用して瘰癧(ふる血腫)非生理的血液凝縮血腫(ふる血腫)等を含むものを溶解解除しやうとするのであります。その考へ方は隨原的の素朴な考へ方ですが、そのヒルから科學者はヒルヂンといふ溶血素を發見しました。これは正しく凝血を溶解し、血液の凝固を防ぐ力があるといふのであります。非科學的、野蠻に見る漢方薬には斯うした新しい目を以て見ても立派な科學性が證明されるのであります。

次に桃仁であります。これは申上ぐるまでもなく桃のタネであります。この薬は婦人病には随分よく使用されるもので、炎症性のもには必ずなくてはならないものであります。即ち消炎作用、驅瘰癧作用、血液の解凝作用があり、その他いろいろの用に立つのであります。餘談になりますが何故婦人病の病にそんなに桃のタネが效くかと申しますと、これは神代の昔から婦人病によく效くといふことが記載されてゐるのであります。

と申しますのは、皆さんも御承知であります。伊邪那美神様が火の神をお生みになつて、それが因でお亡くなりになると、伊邪那岐命様は非常にお嘆きになり、みこと戀しさの餘り遙々と死の世界、陰の世界である黄泉の國へまでお出でになる。そしてやつとこのこと伊邪那美命にお會ひになつて「未だ御身と共に爲すべき仕事は澤山残つてゐるから一緒に再び還つてくれぬか」と申されると、伊邪那美命は「あゝそれはもう手遅れでした。妾はもう黄泉の國の食物を喰べて終つたから、二度と陽の世界へは戻れませぬ」と仰せられたのですから、一應黄泉の國の神に話してみます、どうか暫くお待ち下さい。只今妾が交渉をして來る間あなたは決して中を覗いては下さいませと申される。伊邪那岐命は暫く待つてゐられたが中々待ち遠しく思召して、髪にさしたる湯津々間楯の一本に火を獨して黄泉の國の中を覗いて見られる。すると驚いたことにはあつた。美しがるべき伊邪那美命の體には頭にも、胸にも、お腹にも、陰部にも、蛆が湧いてゐて二日目も見られぬ醜い姿に、伊邪那岐命は直

ちに逃げ出されたのであります。すると伊邪那美命は私の恥しい相を見られた。吾れに辱せたまひつ」として大層お怒りになつて、黄泉の國の醜い女達をして追ひかけさせたのであります。伊邪那岐命は「黒御靈」とか、「湯津々間楯」をか投げつけられるが一時は追手をゆるめるが又追ひかけて來てどろしても逃げない。遂に十拳の劍を以て追拂はうとしてもどうしても駄目なのであります。そこで逃げのびて比良坂の坂本といふ所に來られると桃の實があつた、命はこの桃の實を三つ取つてこれを醜い女達に投げつけてと、彼女達はいふに遂に逃げ失せて終つたといふことであります。さあこの古事記の物語りはいろ／＼の人々が各方面から種々の解釋を下すことが出來ますが、私は漢方醫學の立場から解釋して見やうと思ふのであります。多くの婦人は外見は綺麗にも見えて、大した病といふ様なもの

はない様に見えるのであります。が「湯津々間楯」といふのは人智神智の粹即ち智慧の極致で、今日で云へばレントゲンとか顯微鏡の様には透視擴大してみても、胸には結核菌、お腹には大腸菌淋菌などが書かれてあると解釋することが出ると思ふのであります。當時の桃と今日の桃と同一であるか器がこれをいくらでも育てゝあること程左様に桃仁は婦人病に大切なのであります。そして、女達が追かけて來たといふのは瘰癧や水毒に

第一表

三毒	成 困	自 覺 症 状	他 覺 症 状	主 たる 疾 患	種 別	藥 方
一、遺 傳 二、熱性諸病 三、婦人科諸病 四、打 撲 五、月經、産後 六、精神的原因	一、泌尿器性のもの 二、消化器性のもの 三、呼吸器性のもの 四、皮膚性のもの	頭痛、眩暈、耳鳴、肩凝、動悸 腹痛、上逆、全身灼熱感、腰部冷感、しびれ感 病理 1、非生理的有毒素の作用あり。 2、細菌の寄生繁殖培養となる。 3、循環障碍、栄養障害 4、上衝による。	一、皮膚粘膜炎紫斑點 二、爪甲手掌暗赤色 三、唇暗紫色(舌皴) 四、衄血、便血、尿血、吐血、下血 咯血をみるもの 五、腹症によりて知らるるもの。	一、婦人科疾患の大部分 二、肺 結 核 三、動脈硬化症 四、胃酸過多症 五、皮膚病、痔出血	陽 證 陰 證 陳 久	桃仁、牡丹皮(實)芍藥、地黄(虛) 桃核承氣湯、大黃牡丹皮湯 桂枝茯苓丸、通導散 當歸、川芎、溫性ものを用ゆ。 當歸芍藥散、芍歸膠艾湯、四物湯 水蛭、虻蟲(寒性)、虻蟲(冷性)、乾漆(溫性) 下瘀血湯、抵當丸、大黃蟅蟲丸
二、水毒	一、秘尿器性のもの 二、消化器性のもの 三、呼吸器性のもの 四、皮膚性のもの	動悸、息切れ、全身倦怠、眩暈 嘔吐、頭痛、耳鳴、不眠、心悸 亢進 病理 1、自家中毒症 2、組織機能を減弱、膨化弛緩せしむ。 3、壓迫症候として現はれる。 4、細菌の侵入繁殖を助長せしむ。 5、上逆による。	一、胃内停水 二、肋膜炎 三、水腫 四、心下膨滿 五、伏水の状	一、胃下垂症、胃アトニ1症 二、濕性肋膜炎 三、肺炎、腹膜炎 四、腎臓炎、喘息 五、脚氣、結膜炎 六、神經衰弱、ヒステリ1、ロイマチス 七、糖尿病、膀胱炎 八、皮膚病	陽 證 陰 證	●半夏、澤瀉、葱白、滑石、芒硝甘遂等の冷性及寒性の驅水劑を用ゆ。 茯苓澤瀉湯、猪苓湯、苓桂朮甘湯、小青龍湯、大青龍湯、小半夏加茯苓湯。 ●朮、乾姜、細辛、吳茱萸、附子、巴豆等の溫性及熱性驅水劑を用ゆ。 人參湯、眞武湯、吳茱萸湯、四逆湯、桔梗白散、紫圓。
三、食毒	一、宿食燥尿の腐敗 二、急性の食餌中毒	頭痛、頭重、肩凝、常習性便秘 (急性食餌中毒に在ては腹痛、嘔吐、下痢、腹鳴、四肢、厥冷)	一、腹膨滿 二、皮膚汚醜	一、動脈硬化症 二、チフス、脚氣、丹毒 三、萎縮腎、喘息 四、糖尿病 五、常習性便秘、痔疾 六、癩疽、皮膚病 七、急性食餌、中毒	虛 實 陰 性	●大黃、芒硝の寒冷下劑。 ●大承氣湯、大黃牡丹皮湯、大柴胡湯、防風通聖散。 ●乾姜、人參、附子、巴豆等の溫熱劑 大建中湯、四逆湯、附子理中湯、紫圓走馬湯、等を用ゆる。

よつて、悪く云へばヒステリーを起して男に喰つてかゝつた譯であります。

又前に述べました伊邪美命が、黄泉戸喫(よもつぐひ)したからもはや高天原へ歸られぬといふのは、黄泉の國、陰の國の西洋藥學を迷信し、日本の食養を忘れたことを暗示してゐるとも解釋されるのであります。この黄泉戸喫によつて近頃盲腸炎が大變多くなつたと申しますが、これもも桃仁の配合された大黃牡丹皮湯や腸瀉湯が屢々用ひられて非常に好成績を擧げてゐるのであります。大變話が側道へ這入りましたが次に第二表に移つてお説明申上ませう。

四、婦人病治療の運用例

第二表には婦人病の治療大綱を驅瘀血劑、驅水毒劑、順氣劑、溫補劑、清熱劑と五つに便宜上分けまして、日頃屢々用ひてゐる藥方を十八種、これ等がどう云ふ作用があつて、どう云ふ病名に應用出来るかど云ふことを一覽表としたので先づ第一の桂枝茯苓丸から順次に説明申上ることにいたします。(圖表参照説明省略)

五、結論

以上を以て漢方醫學の婦人領域に於ける治療の大綱、その特徴としての瘀血、水毒その他の總合診斷による全體的治療法に就てお話し上げた譯であります。斯くの如く漢方では婦人病を内科的に藥物を以て治療して優秀な成績を擧げ得らるゝと云ふことは、西洋醫學の缺點とする所を長所として充分に備へてゐるのであつて、たゞ子宮筋腫とか卵巣腫瘍腫などの外科的處置を必要とするもの以外、漢方治療によつて治療することの極めて効果的なことを經驗してゐるのであります。こゝに漢方

第二表 (婦人病の治療)

1	桂枝茯苓丸	(桂枝、茯苓、牡丹皮、桃仁、芍藥各二五)	子宮内膜炎、卵巣炎、月經閉止、流産後下血、痔核、筋腫
2	桃核承氣湯	(桃仁二〇 桂枝一・五 芒硝、甘草、大黃各一〇)	月經困難、胎盤殘留、産後惡露不下
3	大黃牡丹皮湯	(大黃一〇 牡丹皮、桃仁、芒硝各二〇 瓜子仁三〇)	卵巣炎、盲腸炎、副睪丸炎、急性尿道炎
4	抵當湯	(水蛭一〇ケ、虻蟲一〇ケ、桃仁七ケ、大黃一〇)	經閉、糖尿病、癲癩、打撲、折傷
5	折衝飲	(牡丹皮、桃仁、川芎、延胡、各二〇、當歸、芍藥、桂枝、牛膝各一・五、紅花〇・三)	卵巣炎、喇叭管炎、月經痛、帶下
6	當歸芍藥散	(當歸、川芎各一・五 芍藥、茯苓、朮、澤瀉各三〇)	子宮内膜炎
7	小半夏加茯苓湯	(半夏、生姜各三・五 茯苓一・五) 人参湯、人参白朮乾姜各三〇 甘草一・五	妊娠腹痛、流産症、安胎藥、妊娠腎
8	八味丸	(乾地三五 山藥、萸薺、茯苓、澤瀉、牡丹皮、桂枝各二〇 附子〇・三)	惡阻、嘔吐
9	正氣天香湯	(香附一・五 陳皮、烏藥、蘇葉、乾姜各一〇 甘草〇・五) 小連中湯 桂枝生薑大黃三〇	膀胱加答兒、産後及手術後の尿閉、帶下、陰痿、腰痛、糖尿病
10	半夏厚朴湯	(半夏三〇 茯苓、生姜各二〇 厚朴一・五 蘇葉〇・八)	ヒステリー、神經衰弱、血の道、月經閉止
11	四物湯	(當歸、芍藥、川芎、熟地各二〇) 木瓜 黃朮二五 薯蕷仁四〇	ヒステリー、神經衰弱、血の道、月經閉止
12	芎歸膠艾湯	(川芎、甘草、艾葉各一〇 當歸、芍藥各一・五 乾地二・五 阿膠一〇)	月經異常、産前産後諸症、血脚氣、血の道、發育不全(子宮卵巣)
13	溫經湯	(吳茱萸、當歸、川芎、芍藥、人参、桂枝、阿膠、牡丹皮、生薑、甘草各一〇 半夏、麥門冬各二〇)	流産後出血、痔出血腎出血、紫斑病、諸貧血
14	十全大補湯	(人参、白朮、茯苓、當歸、芍藥、川芎、熟地、桂皮、黃耆、甘草各一・五)	更年期出血、子宮内膜炎、月經不順、手掌角化症
15	當歸四逆湯	(當歸、桂枝、芍藥、木通各一・五 細辛、甘草各一〇 大棗二〇)	産後病後衰弱、貧血、下血、帶下、疲勞
16	加味逍遙散	(當歸、芍藥、白朮、茯苓、柴胡各二〇 甘草一〇 乾姜、薄荷各一〇 牡丹皮、梔子各一・五)	寒え腹、凍傷、坐骨神經痛
17	炙甘草湯	(炙甘草、當歸、生薑、桂枝、麻子仁、大棗各一・五 人参一〇 地黃、麥門各三〇 阿膠一〇)	月經不順、氣鬱症、血の道
18	八味帶下方	(當歸、川芎、茯苓、陳皮、木通、各二・五 大黃〇・五 金銀一〇)	産褥熱、心臟病

と漢藥八月號から掲載されることになつて居ります。『婦人體質に關する研究』といふ原稿があります。これは筆者にお断りせず氣質さんの御好意で拜見させて頂いたのであります。この論文の筆者は金澤病院で卒業され、東大病院や佐市立病院の婦人科部長をしてゐられる。今村昌一博士であります。こゝに百四十例ほどの治験成績が婦人科専門の内診の結果の所見や、その他種々の検査をされて

その上で漢方藥を以て治療された結果を報告されてゐるのであります。今村博士は婦人體質(1)肥満性多血性體質、(2)肥満性貧血性體質、(3)瘦弱性虚弱體質の三つに分類し、(1)には主として驅瘀血と驅水毒劑、(2)には主として驅水毒劑と驅瘀血劑、(3)には主として溫補劑を用ひて非常な好成績を収めてゐるのであります。そして博士は漢方の内用による治癒率の優秀なることを明言してゐられます。斯くして漢方治療

漢方醫學大觀

漢方研究者必備の

漢方百科辭典

東京市京橋區横町二ノ五 不二ビル

日本漢方醫學會發行

二種の體質と薬用

清水 藤太郎

人體には薬用上二種の體質がある、例へばアスピリンをやると胃を害する者と然らざるものと、西K型に分ける。もとより其中間に洋醫學では之を特異質と見るだけ

Z 型

夏は暑がり 冬は寒がる
エリマキしない
寢床からのり出る
上が熱くて足が冷える
肩が張る
食物を澤山たべられる
食事時間が待てる
旨いまづいを云はない、わからな

K 型

そんなでもない
エリマキする
もぐり込む
足が温かい
張らない
澤山たべられない
待てない
よくわかる、やかましい
弱さうだ
小さい
あまり出ない
軟い
張らない、出ない、云はない
近い 一回以上
汗が出る
鋭角
脱力する
胃を悪くする

平常丈夫さうだ
涙、鼻汁、痰などがよく出る
腹が硬い、尻が出る、寢言を云ふ
腹が張る、一回以下
便通が遠い、出きらない
便所が長い、出きらない
感言で汗が無い
上腹角が鈍角
下劑で下つて爽快となる
アスピリンが何ともない

化するのである。
體質によつて別薬を使ふ治療法は西洋には無く古方と云はれ
は西洋醫學にある、漢方では體質を慮と實に分ける。實證とは充實の意で病体内に充實するも體力猶是と對抗しつゝあるもの、虚證とは空虚の意で病毒未だ去らざるに精力既に虚乏せるものである。前述のZ型は實證に當りK型は虚證に當る。然し症候には病の主

なり本となるものと客となり末となるものとある。治療は其主と本を見て薬を用ひるので客や末に眩惑してはいけぬ、例へば便秘と頭痛ある場合に頭痛薬は効かぬし便秘を治すれば頭痛は薬なくして治る、此場合便秘は本で頭痛は末である。漢方は此本と末(標とも云ふ)をよく見分けるのである、それが名醫と庸醫の別となる、前述の表の各條は本のみならず末に當るものがある、従つて之によつて直に虚と實とするわけにはいか

漢方廢止は暴政なり

瀧田 行彦

漢方廢止の裏面
明治以降漢方が廢止されまじた。併しこれは無能の故では断じてなかつたのであります。當時の實相を傳へる某博士の回顧談を貴重なる資料として披露させて頂く「長谷川泰と云ふ男が、どうして漢方醫學は廢してしまつて西洋醫學を作らなければならぬと云ふて明治七八年頃洋醫學を云ふのを創つた。漢方醫學を廢する時に差支へが起らぬ様に速成に洋醫學者を作つてその勢力を扶植した。大變粗末な教育であつたので色々非難も起つたらしいが、免に角頭張り通してとうとう明治十四年に、日本の醫學者は漢方醫學を廢めて西洋醫學のみにしなげればいかんと云ふ事にして仕舞つた。併し今までの職業を失はせると云ふ事は甚だ宜しくないといふので、満二十五歳で漢方醫學の子弟である者には開業免状を與へ、それ以下の者は西洋醫學の試験を受けなければ免状をやる。それでお終ひと云ふ事になつた。

ないが大體わかる、新薬を用ふるにも舊薬でも洋の東西、物の新舊を論ぜず此二種の體質により異なる薬用をしなければ病は治癒しない事を漢方醫學は経験してゐる。西洋醫學のA型B型O型等の血液型は氣質に關する分類であつて殘念ながら治療に役立たない、しかし之も漢方醫學的に考究すれば幾分體質を暗示するものではないか、A型がZ型でB型がK型と云ふ風に、體質を見ずして薬用するは無謀な醫學である。

我等の農園を返せ

九月の漢方醫界

此の粗製濫造は忽ち世の非難を受けた。これは漢方には關係はないが、過渡期に於ける一資料故博士の回顧談を再び掲げさせて頂く「青山胤通と云ふ人が、醫學教育の統一と云ふ事を心配して、今迄洋醫學を心配して、今迄漢方醫學を賣つたが、これは随分粗製濫造品であつたので廣止しなければならぬといふので、第一に内務省醫術開業試験といふものを廢止してしまつて學校教育に依らなければならぬ。これは官立にしても私立にしても中等學校を終へなければ醫者の學問をやつてはいかぬと云ふ事にして、當時洋醫學は小學校だけでも入れるので肩擡の取れないものにも試験さへ通れば免状が貰へた。さう云ふ事はいかぬ、醫者は少くも、専門學校か大學を出なければならぬ、後には醫學專ら廢して大學だけにしようといふ様な案を持つてゐたらしいが途中でなくなつて了つた。併し彼の意見は立派に實現した。これに就ての批判は後日他の方面からすると、此處には只紹介するにとどめる。

さて醫家に取つて最も必要なのは患者の信頼であります。而してこれは一朝一夕に得られるものではない。洋醫學は明治に於て出現致しました。従つて彼等には民衆の信も無く當然餓死すべきであつた。然るにこれが何故餓死せず直ちに醫師としての地位や信頼をかち得たか、それは云ふ迄もなく過去幾百年に亙る漢醫學の營々たる辛苦の賜物であります。その地盤を其の儘踏襲否踏襲したのが洋醫學であります、即ち漢醫學が營々として耕し汝々として種を蒔いた其の農園を彼等洋醫學が奪ひ取つたのであります。吾人は我等の農園を我等に返せと絶叫する。

一 日 金鷄學院に於て矢數道明氏の「漢方の概念と近代的使命」なる講演あり。

四 日 滿洲國民生部技佐豊田有康氏公用にて上京せられ協理理事大塚敬節、龍野一雄、矢數道明三氏は東京驛に迎へ、山玉ホテルにて懇談す。

五 日 神田明神境内長生殿に於て、豊田有康氏歓迎會を開催す出席者清水藤太郎、大塚敬節、矢數道明、龍野一雄、矢數道明五氏和氣露々裡に懇談す。

同日 漢方と漢藥主催、漢藥を語る座談會。新宿丸ぎんに於て出席者木村雄四郎、栗原廣三、植木蕨葉、清水藤太郎、土田梅吉、氣賀林一語氏。

十五日 拓大講義秋季藥草採取へイキョウ、北鎌倉一帯地、指導者清水藤太郎、植木兩氏。

廿 日 東亞醫學協會附屬圖書館設立の運びとなる。即ち石原保秀氏文庫を拓殖大學圖書館へ移轉す。當日立會理事大塚敬節、矢數道明兩氏、委員安達拾次郎氏。

廿一日 東亞醫學協會九月例会、拓大第一講堂に於て「マラリア治療に於ける漢洋比較研究と紫圓の應用」講師 陸軍藥劑官中島寅男氏。

同日 丸の内ホテル食堂に於て滿洲國民生部豊田有康氏の招待を受け、協理理事柳谷素葉、龍野一雄、清水藤太郎、矢數道明、矢數道明五氏出席、同國漢醫學の將來についての懇談會を開催し具體案を手交すこの日理事矢數道明、龍野一雄兩氏は豊田氏よ

り滿洲國民生部保健司囑託の辭令を受領す。
廿二日 日本醫師生藥配給組合臨時總會を小石川傳通會館に於て開催、決算報告、緊急事項、事業方針に關して議事終了。
廿二日 高柳米壽氏所有千葉縣鎌ヶ谷農園の一部を協會藥草園として試作計畫につき同氏の案内にて渡邊武、安達捨次郎兩氏下

藥劑官中島寅男中尉の講演

九月廿一日午後六時半より拓大講堂に於て『マラリア治療に於ける漢洋比較研究と藥圓の應用』と題して、中島寅男氏の講演があつた。國府憲陸軍病院御勤務の忙しさの中を種々資料を用意されて協會のため特に御都合つけ下さつたことは感謝に堪えない。重症マラリア患者に對する小柴胡湯の俾效數枚の成績表を壁間に掲げ、その驚くべき治療成績に一同感嘆した。これは堂々たる學術發表で赤沈反應と熱度表の示す快癒振りは見事なものである。

同時に中島氏の飽くまで眞摯な態度、飽くまで漢方の本領を守られての殉學的態度には感涙を催すものがあつた。即ち此等の貴重な業績は隊附藥劑官として第一戦に活躍しつゝ、任務を終へて疲れた身體に鞭つて、遠距離を物ともせず野戰病院まで馳せつけ、擔任の患者を受持つて、詳細なる病床日誌や、諸検査、藥を自ら煎じて與へ、終れば再び第一戦へ馳せつけるといふ奮闘振りであつたといふ。又氏は出征以來藥圓の俾效を自ら試むべく、絶対に豫防注射をなさず、飲食物を平氣で攝取し、その後で藥圓を服用して居れば絶対に痢疾に罹らず、前後四年の間一度も休んだことがなかつたといふことである。痢疾流行の地にあつて自らこの實驗證明を確めて部下に

檢分に出張す。
廿五日 醫道の日本社主催、日本鍼灸醫道講習會を開講す。會場東京醫師會館及覺王山、廿九日終了、聽講者五十八名。
廿六日 漢方と漢藥主催、診療餘話、新宿丸きんにて開催、出席者、三上平太、小出壽、矢數有道、矢數道明、氣賀林一五氏。

石原漢方圖書館の誕生

東亞醫學協會拓大漢方講座
本協會は豫て事業の一つとして漢方圖書館の設立を企圖し、從來も大方諸賢の寄贈を受けてゐたが、今般、藏書家、愛書家を以て定評のある協合理事石原保秀氏の藏書全部六百部數千冊の寄贈を受け、協會は之に對して可能な禮をつくして引受けすることとなり、去る九月廿日石原氏宅より拓殖大學圖書館へ搬入依託し、その整理に取掛つた。目錄、貸出規定等は目下作製中で完成次第發表の豫定である。協會は本藏書を石原文庫として石原氏の功績を傳へ、廣く會員諸氏の研究に資し後進誘掖のために活用し度く準備中である。

本協會主催 秋季藥草採集會催さる

昭和十五年秋季藥草採集は去る九月十五日、北鎌倉明月院裏山にて行はる。横濱の松野重太郎氏の案内御指導を得る筈であつたが都合悪く漢方の令息が巨龜を提げての御指導を得た。この前の採集會の時見られなかつた側柏葉やギなど一つ一つ分つて行く興味に皆張り切つてゐる間に大塔宮前に着き解散す。

東亞醫學協會拓大漢方講座

本協會は豫て事業の一つとして漢方圖書館の設立を企圖し、從來も大方諸賢の寄贈を受けてゐたが、今般、藏書家、愛書家を以て定評のある協合理事石原保秀氏の藏書全部六百部數千冊の寄贈を受け、協會は之に對して可能な禮をつくして引受けすることとなり、去る九月廿日石原氏宅より拓殖大學圖書館へ搬入依託し、その整理に取掛つた。目錄、貸出規定等は目下作製中で完成次第發表の豫定である。協會は本藏書を石原文庫として石原氏の功績を傳へ、廣く會員諸氏の研究に資し後進誘掖のために活用し度く準備中である。

本協會主催

昭和十五年秋季藥草採集は去る九月十五日、北鎌倉明月院裏山にて行はる。横濱の松野重太郎氏の案内御指導を得る筈であつたが都合悪く漢方の令息が巨龜を提げての御指導を得た。この前の採集會の時見られなかつた側柏葉やギなど一つ一つ分つて行く興味に皆張り切つてゐる間に大塔宮前に着き解散す。

秋季藥草採集會催さる

昭和十五年秋季藥草採集は去る九月十五日、北鎌倉明月院裏山にて行はる。横濱の松野重太郎氏の案内御指導を得る筈であつたが都合悪く漢方の令息が巨龜を提げての御指導を得た。この前の採集會の時見られなかつた側柏葉やギなど一つ一つ分つて行く興味に皆張り切つてゐる間に大塔宮前に着き解散す。

東亞醫學協會講演集 第一輯

本講演集は拓大漢方講座五周年記念講演會に於ける講演を纏めて一冊としたもので、漢方と漢藥掲載のものを別冊として新しく裝幀したのである。總頁五十三頁、内容は、

- 一、藜蘆驚甲散の運用に就て 矢數 道明
- 一、和田東郭の研究 大塚 敬節
- 一、日本醫學への道 渡邊 武
- 一、傷寒金匱の藥物の再吟味 龍野 一雄
- 一、古代印度醫學に於ける 龍野 一雄
- 一、鍼灸經絡に就て 龍野 一雄
- 一、陰陽の概念規定に就て 矢數 有道
- 一、内經の研究 矢數 有道
- 一、瓜呂枳實湯の運用 木村 長久
- 一、鍼灸治穴配合の構造 柳谷 素靈
- 一、五行論に對する一考察 西澤 生恵
- 一、人蔘の心下痞輟論 清水 藤太郎
- 一、副食物と腹候との關係に就て 小出 壽

定價 一部 五拾錢也 送料共

申込所 東亞醫學協會宛

當日參會者は次の通り。(敬稱略)

- 相川光一郎、相川すゞ、高柳米壽、金平ステエ、藤代蕃山、山口能夫秀、櫻庭富作、武井嘉縣、武井經廣、宮前次夫、佐々木正人、小川良之助、沼田基夫、井上柳吉、永田八四郎、植木要章、渡邊信山、横澤賢、大草吉野、神山鐵男、家本良子、森乙松、井上久男、鹽月精平、町田直衛、他に家族有志の方の參會ありたり。

九月十五日、北鎌倉明月院裏山にて行はる。横濱の松野重太郎氏の案内御指導を得る筈であつたが都合悪く漢方の令息が巨龜を提げての御指導を得た。この前の採集會の時見られなかつた側柏葉やギなど一つ一つ分つて行く興味に皆張り切つてゐる間に大塔宮前に着き解散す。

滿洲國民生部 豊田氏と協會 理事の懇談會

丸の内ホテル

食堂にて

開拓醫集と、國立漢方醫學研究會設立準備調査のため、上京中の民生部技佐豊田有康氏は豫定の任務を終へ、愈々離京することとなつたので、廿一日午後五時より氏の宿舎丸の内ホテル食堂に協會理事を招き、懇談會を開催した。當日龍野一雄氏渡滿以來の苦辛に成る、滿洲國漢方醫學の進路、試験制度、研究所の内容等に関する意見を詳細説明し之を中心に向後の日滿の漢方醫學提携とその發展策に關し懇談した。當日の出席理事は、清水藤太郎、龍野一雄、矢數有道、柳谷素齋、矢數道明の五氏であつた。豊田氏は翌廿二日午後一時半のつばめにて東京驛を出發され、矢數理事が代表で見送つた。

矢數、龍野兩理事 事滿洲國民生部 囑託となる

去る七日中旬滿洲民生部よりの招狀に接して新京に赴き、同國漢方醫學及漢醫の行政的立案に意見を提示した兩氏は、民生部技佐豊田有康氏の東京に際し、山崎佐博士と共に民生部囑託としての辭令を受け、向後一段と同國の漢方醫學發展の上に參與することとなつた。

謹啓、秋冷相催し候處、先生には如何御渡光遊ばされ候や、御伺ひ申上候、豫て本會諸事業に就ては一方ならぬ御後援を賜はり居候段難有く御厚禮申上候、借而今回皇紀二千六百年を記念し、本會事業として同封紙の如き調査を計畫いたし、非常時局下の新體制參加の一助とも致し度く、之が實現に邁進致し居り候間、先生におかせられても何卒御協力賜はりたく奉懇願候、申上ぐるまでもなく來春開會の帝國議會には政府案として醫療制度改革案が提出さるゝことは既定の事實に有之、且つ客觀的情勢は斯る改革案の實現を可能ならしむる状態に向つて推移しつゝあり、此際先生の如く和漢生藥を主として使用せらるる醫師は所謂漢方醫として一致團結し、新體制に即應して國家百年の大計に寄與すべき具體案を作成すること目下の急務かと存じ候、加ふるに諸物資統制、國內技術者の調査統制等の新體制に即應し、やがて漢方専門科名の懸案解決の爲めにも、これ等の同意を早急に完備する必要有之ことと存じ候、斯かる意味に於て此の度の本會の調査が之等の機運への媒介として有意義なる企てなる事を御含みの上是非とも御協力賜はり度く御願申上候。追て本調査は可及的早く整理いたし度く存じ候に付き折返へし御返信賜はり度く、遅くも本月中に整理を終り度く存じ候、又本調査は官廳方面に直接提示する様のこと決して無之候間御諒承下され度く願上候、尙ほ本調査の費用については先生方に寄附その他の御迷惑は絶対に相掛けまじく候間爲念申し添へ候。

昭和十五年十月 日

頓首

東京市京橋區横町二ノ五二二ビル内

日本漢方醫學會

氣賀林一

先生

貴下

追伸 本會關係の諸先生へは本調査表を御送附申上候へども、若し御知合ひの醫師にして漢方治療に従事し、相當經歷ある方を御存知の節は、その先生の御住所姓名を御一報下され度く重ねて御願ひ申上候。

東亞醫學協會々 旗寄附の件

本協會々旗寄附について會員諸兄弟より御寄附を頂き本月迄の總計壹百七圓也となりました。製作費は全部にて百六十圓でありますのであと五十三圓の不足ですが、此の際有志の方に特に御寄附を頂き本月中で一旦締切つて、不足の分は協會の方で立替へて頂くことにします、何卒御諒承下さい。 十月一日 發起人一同

本協會九月例会 出席者芳名

深堀氏、山本氏、武井氏、佐々木氏、伊藤氏、熊野氏、田先氏、工藤氏、板倉氏、加藤氏、鈴木氏、小林氏、河村氏、海野氏、根岸氏、小林氏、中村氏、氣賀氏、原田氏、野田氏、戸部氏、海老名氏、山口氏、藤井氏、阿久津氏、渡邊氏、龍岡氏、坂名城氏、瀧田氏、矢數氏、清水比、矢數氏 以上三十三名

本協會寄附者 芳名

金百圓也 高柳米壽氏
金二圓四拾錢也 (品川) 龜岡 晉氏 (大阪) 植田順三郎氏 (豐島) 青木 俊道氏 (長野) 倉島 宗二氏 (千葉) 加藤 一三氏 (城東) 田先滿壽男氏 (品川) 熊野 可一氏 (葛飾) 佐藤 文藏氏 (茨城) 龍田 行彦氏 (本郷) 増田 哲齊氏 金六十錢也 (熊本) 井上藤太郎氏

本協會旗寄附者 芳名

金五十錢也 (茨城) 龍田 行彦氏 (十月三日迄受付)

本協會寄附金 及誌代納入

一 金壹圓貳拾錢也 高瀬 久吉 山田 富三郎 沙見 文之助 堂端 新一 種村 哲哉 高橋 修吉 山名 禎二 牧野 玄二郎 森川 源平 山本 善 福田 源平 高橋 重勝 春 季彦 大田 豐和 神保 幸久 神保 勇三郎 大内 辰五郎 大内 役七 竹井 好松 ゐのはな會 今井 千代 岩崎 正重 神保 幸信 伊吹 明 石丸 利治 神保 秀雄 杉山 健吾 松浦 義昌 柳川 一臨 菅沼 義之 加納 久雄 三宅 篤 春日 重樹 長尾 廉 明石 くに 森本 武男 小田 廣 山平 久太郎 三谷 泰一 中西 新之助 佐野 精一 宮崎 雄一 磯崎 正一 春宮 重晴 岡田 正一 小松 茂男 淺井 豐 宮崎 藤次郎 大野 忠雄 太田 代徳 黒川 昌榮 渡邊 千代治 高田 八重子 井本 明治 吉田 まつ枝 高田 宜 吉田 信治 龍 清造 打田 清太郎 森 小川 涼

紹介

望眞小誌

第二十號

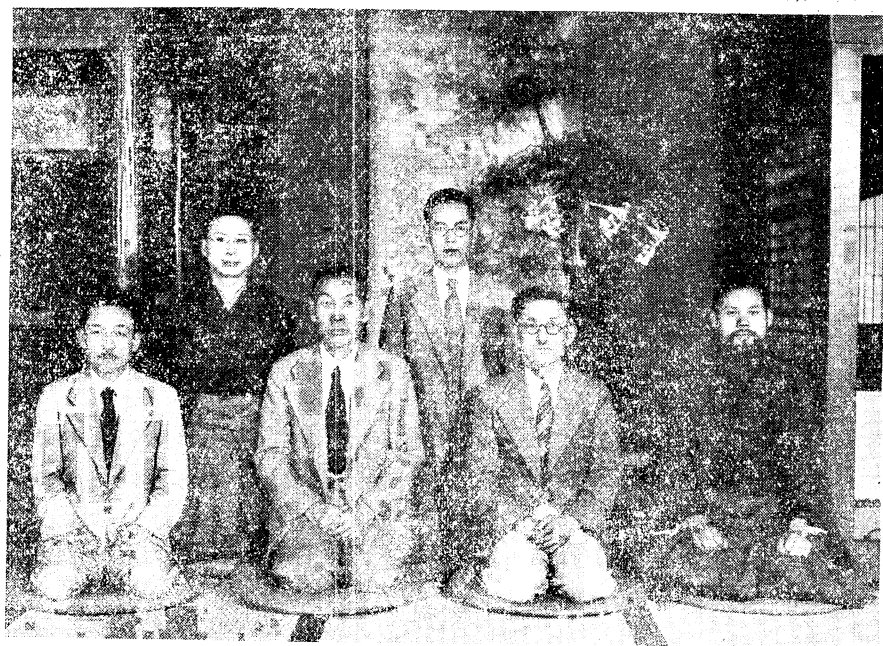
右中島承齊先生に對し厚く感謝の意を表し申候。

永田 榮 佐々木 明恵 佐野 櫻子 吉藤 松泉 福島 三郎 古賀 三保 中山 謙三郎 坂井 良助 前田 たま 松原 房一郎 上田 源三郎 福島 良一 森谷 源治 池田 寛次 野口 能敬 梅田 辰造 宮本 榮馬 堀江 富太郎 中田 武 以上八十一名 (敬稱略)

○卷頭言 代田 文誌
○湧泉穴に就て 濱島 英雄
○靖命堂閑話 堀越 清三
○胃疾患治驗 倉島 宗二
○仁醫通規 川口 乃大
○其他 代田 文誌

本誌は長野市の鍼灸家代田文誌氏主宰するところの雜誌で、鍼灸研究者の集り望眞會發行(長野市縣町一五)、記事は鍼灸の技術と云ふよりも、むしろ道のイデオロギーに據つたもので、さういふ氣分が溢れてゐるところに特徴がある。

主幹代田文誌氏の眞摯な鍼灸道に對する態度が映つてゐる。



豊田有康氏歓迎會 (記事前號参照)

會員だより

此の間風邪を消ひ込んでしまつて、學校の病院の醫者に診て貰ひましたら「アスピリンとマグネシヤ」やアスピリンと胃腸薬と交ぜたものを服まされ熱が下らずひどい目に遭ひました。自己流に桂枝加芍薬大黃湯を買ひにやつてのんだら早速解熱致し、今更乍ら漢方の妙味に感服致しました。將來は益々漢方の研究をしてみたいと思つて居ります。(T生)

昭和十五年九月廿一日

藤原咲平博士のお灸推奨論

お灸を用ひる家の子は、忍耐力が強く、總て優良である

天氣驟報で、新聞やラジオを通じて、皆様とおなじみの理學博士藤原咲平氏は、次の如くお灸を讚美する。今までの鍼灸家の誰れもが氣のつかなくなつたことだし、仲々面白いお灸なので御披露に及ぶこと次の如し。

勇武の第三要素たる氣力は、恐らく、世界中我が國民の右に出づるものはない。此の氣力を分析するに第一に無畏である。日本人だとして命も惜しいし腫も恐い。併し其の爲に前後を忘却して逃げると失神状態になる様なことはなく、我慢もすれば細念もするのである。此れは共に武士の教養であつて、それが庶民に行き渡り、小供の時からそれに浸り、女に迄行き渡つて居る。第一、女のお産をする時にしても、外國人はいたく若痛を恐れ、或は産氣づくと麻酔劑を用ひて、意識を無くし其間に産を経過するのである。此の頃の日本の女にも又産科醫にも時々此の様なことを行ひたがるものが出て来たが、甚だにががしい事である。病氣や負傷や其の他身體に苦痛を與へることは、屢々繰返して馴れると痛みを感じずることも減じ、又それを恐れることも少くなるものである。一寸した點眼などでも、日本の子供は左程泣かないが、西洋の小供は大袈裟に泣きわめくのである。湯湯の四十二、三度位なのに入ると思はれる。要するに、日本人は小供の時から割合強い刺戟に堪へ得る様に育てられ、其の爲に負傷等に對しても、外人程に恐れない。此の疼痛に對する鍛錬は、灸を据えて試みるに、初めの一回は實に耐え難い様な熱さを感じるが、二回三回と繰返す中次第に熱くなくなり、四五回目からは却つて爽快さを感じる。これは酒や煙草が始め辛いのが馴れば平氣になると同様である。小供の蟲封じと云ふ事がある。疳の丸を飲ませるが、其外灸を据える事が根本的良効果を齎すことは良く知られて居つた。此の頃これが廢つて来たのは憂ふべきで、村の中でも灸を用ひる家の小供は我が儘でなく、且忍耐力が強く、總て優良である。此の小供のぐづる時に、灸で治すことは二重にも三重にも効果が有り、最終目的は國民性として神經を太くし、苦痛を恐れぬ勇氣を養ひ得ると思ひ。自分も小供の時に熱い湯が嫌ひで苦しんだが、父の曰く『やけどをする様な湯には這つてはいけない。併し焼けどをしない程度なら、どんなに熱くとも我慢さへすればそれで済む事だ。男のくせに湯が熱くて這入れぬなぞをかしくて聞いて居れない』と。それ以來人々の這入つて居る湯ならどんな湯でも這入れる様になつた云々。

原稿募集

一般の投稿歓迎
毎月締切四日
編輯部

漢方藥物學古典集

- 一、訂補藥性提要 (六九頁) 多紀元簡著
- 一、方伎雜誌藥品抄 (三四頁) 尾台榕堂著
- 一、日用藥品考 (一八七頁) 柴田正簡著

【定價 參圓五拾錢也】

右三書を一冊となして刊行せるもの、印刷鮮明、裝幀優美、推奨に價する。

發行所 東京市牛込區富久町八十八番地 漢方珍書頒布會 (振替口座東京七五〇五四番)

淺田宗伯先生 偉徳顯彰會設立する

故栗園淺田宗伯先生の郷里、長野縣東筑摩郡島立村の村長百瀬利藤治氏は、此程淺田宗伯先生偉徳顯彰會の設立を企圖し、文部大臣橋田邦彦先生を始め、その他漢方醫界の有力者を賛助員とし、左の事業を行ふ筈。

- 一、淺田宗伯先生彰徳碑建立
- 一、淺田宗伯先生略傳の出版
- 一、遺品、遺墨展覽會の開催
- 一、記念講演會の開催
- 一、淺田宗伯先生全集の出版

近世内科藥處方集 第四集

本書は蘇州の名醫葉橘泉氏の著にして、循環系統病、血液病、ビタミン缺乏病、腺病等の各篇に就いて漢方醫學を現代的に解説したものである。

定價 二圓
發行所 上海三馬路 千頃堂書局

編輯後記

〇われわれは漢方が現在の文化に於て、いかなる位置を占めてゐるかを先づ自覺せよ! 西洋醫學に對して追従であつてもいけない、並立的意識でもいけない、それを超越してもつと遙か高度の觀點に立たなければいけない。と三田ツ兒龍野一雄氏は巻頭に漢方の「獨立自尊」の精神を説く。

〇「婦人科的疾患に對する漢方治療の特徴」は、矢數道明氏の理路整然たる拡大講演を、更にまとめたもの、氏の最も特意とする話題をとらへて快心の一文の様に思はれる。

〇清水氏の「二種の體質と藥用」は掲げた表によつて、讀者各位先づ己れを試みられよ。

〇中島寅男藥劑官の講演要旨は、「漢方と漢藥」十月號に掲載。

〇第七面の日本漢方醫學會の「全國漢方醫家調査」は國家新體制に即應し、漢方醫學發展の爲めになされたもの、廣く各位の御協力を願ひ度い。